2023-4-17

中国地方・奈良・京都～さくら巡り～その５(京都-１)

山本 雅晴

昨年に続いて４月初めから約一週間京都の桜を見て回る予定を立てた。昨年は醍醐寺・嵐山・天龍寺・円山公園など早めに咲く枝垂れ桜の満開に恵まれ十分鑑賞できた。しかし、今年は４月１日ですでに散り始めていた。京都駅にある市の観光案内所に寄り各桜の名所の開花状況の一覧表を入手して訪問地を選択した。

４月１日：夕方宿泊場所に近くの**「渉成園」**を散策したが、ここも桜はピーク・アウトしていて山吹や新芽の緑が目立った。夕食は祇園の方だったので、**円山公園と八坂神社**を覗いてみた。コロナ禍以前の賑わいで、土曜日の夕方で酒宴も最高潮で、名物の枝垂れ桜には冨田渓仙「祇園夜桜」にも描かれた篝火が焚かれていた。

写真１　渉成園の回遊式池泉庭園

写真２　円山公園の枝垂れ桜と篝火

４月２日：日曜日で天気も良かったので混みそうな場所は避け、地下鉄で移動することにした。昨秋の紅葉巡りで訪れた際に見た、樹齢 150 年の枝垂れ桜が見たくて山科の**毘沙門堂**を訪れた。ここには桜はあまりなく、枝垂れ桜はやや散り始めていた。そこからの帰りに**琵琶湖疎水**の桜を見ることにした。地元のボランティアが桜の木の周辺に菜の花を咲かせコントラストが抜群だった。

写真３　山科・毘沙門堂の枝垂れ桜

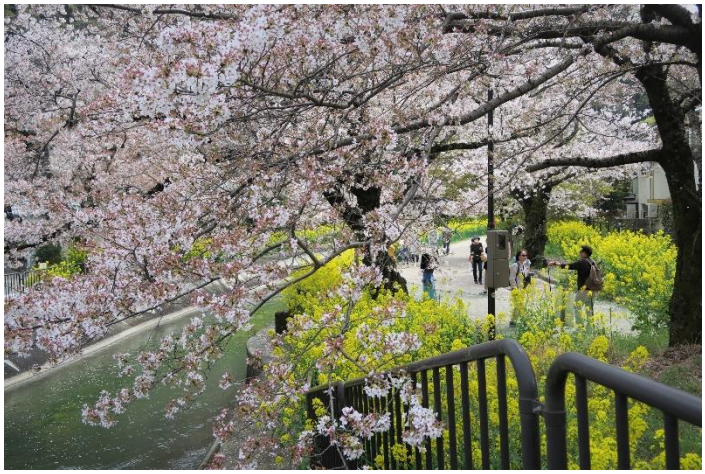

写真４　山科・琵琶湖疎水の桜と菜の花

午後には北山の**京都府植物園**と**なからきの道**を訪れた。昨年も春・秋に訪れているがここは定点観察地として訪れることにしている。植物園のソメイヨシノや大木のしだれ桜は見頃を過ぎていたが、紅八重枝垂れとチューリップはまさに見頃だった。なからきの道の 900m に亘る紅八重枝垂れ桜の並木道は見頃で昨年来た時より６日早かった。紅八重枝垂れ桜は平安神宮の神苑が有名で今年は訪れる予定にしている。（京都-２）で報告。

古今集の伊勢大輔の歌に八重桜は詠われている「いにしえの奈良の都の八重桜けふ九重に匂ひぬるかな」。この頃は奈良では八重桜はあったが、都の京都では八重桜は珍しく奈良から京都におくられて美しく咲いている。

写真５　京都府植物園の桜とチューリップ

写真６　なからきの道の紅八重しだれ桜

写真７　京都府植物園のしだれ桜(2022-3-30)

写真８　京都府植物園のしだれ桜(2023-4-2)

植物園のしだれ桜は昨年は３月末にきれいに咲いていたが、今年の４月初めには花は完全に終わっていた。

４月３日：天気も良く月曜日であまり混んでいないものと推定し、京都駅バス停から大原の三千院に向かった。予想通り観光客は少なく外国人もほとんどいなかった。各種の桜も見頃で時間をかけて思う存分観桜できた。

写真９　三千院の門前としだれ桜

写真 10　三千院・観音堂付近

池泉鑑賞式庭園のしゅう碧園に面した赤い毛氈を敷いた縁側で優雅な気持ちで抹茶をいただいた。往生極楽院で国宝の「阿弥陀三尊像」を見たのち、初めて「円融蔵」に入り往生極楽院の舟底型天井画の極彩色模写した天井画を鑑賞した。

また、門前の蕎麦屋で久しぶりにおいしい腰のあるそばを食べ、三千院を後にした。